

ヨウ素剤 今秋配布へ

篠山市、原発事故対策

原発事故の際、甲状腺の内部被ばくを防ぐため、ヨウ素剤を配布する。安定ヨウ素剤について、篠山市は17日まで、今秋から希望する市民に事前配布する方針を固めた。同日には市の第三者委員会が「事前配布を速やかに行うように」とする提言書を酒井隆明市長に提出した。

同委員会は2012年、放射線治療が専門の医師や市民らで発足。国や兵庫県が原子力災害対策計画を策定している。同委員会は原発から5キロ圏内の自治体には事前配布を求め、30キロ圏内では同委員会の判断の下で服用するなどの指針を示している。県内では西脇市が備蓄しており、高浜原発から30キロ圏内の京都府舞鶴、宮津市なども保管している。

(安福直剛)



酒井隆明市長(左)に原発対策の提言書を手渡す委員＝篠山市役所

「事前配布を速やかに行うように」とする提言書を酒井隆明市長に提出した。

同委員は2012年、放射線治療が専門の医師や市民らで発足。国や兵庫県が原子力災害対策計画を策定している。同委員会は原発から5キロ圏内の自治体には事前配布を求め、30キロ圏内では同委員会の判断の下で服用するなどの指針を示している。県内では西脇市が備蓄しており、高浜原発から30キロ圏内の京都府舞鶴、宮津市なども保管している。

(安福直剛)

「ヨウ素剤 早急配布を」

篠山市 原子力災害対策委提言

篠山市の住民や医療関係者ら17人でつくる同市原子力災害対策検討委員会(委員長・平野斉副市長)は17日、提言書「原子力災害対策計画にむけての提言」を酒井隆明市長に提出した。福井県内の原発事故に備え、速やかに対策をとるよう求めた。



酒井隆明市長(左)に提言書を手渡す篠山市原子力災害対策検討委員＝篠山市役所

東京電力福島第一原発の事故を受け、市は2012年10月に有識者や医療関係者、公募した市民らで検討委員会をつくり、市から45〜70キロ離れた福井県高浜町とおおい町で深刻な原発事故が起きた場合の対策を検討してきた。今回の提言では、甲状腺被ばくを防ぐ安定ヨウ素剤の事前配布や配布計画の公表を速やかに行う▽避難計画の策定や避難・退避勧告の広報体制の整備を進める―ことなどを求めている。

県が13年に出した原発事故被害シミュレーションの放射性物質の拡散予測をもとに、市は昨年3月、安定ヨウ素剤5万人分を約88万円(保管費など含む)で購入し、市役所や診療所などで5カ所に備蓄している。市は現在、この安定ヨウ素剤を希望者に事前配布する方法を検討しており、提言書を受け取った酒井市長は「できることから順次取り組みたい」と話した。

(鶴飼真)

6/18

篠山市、1万人を想定

避難計画などガイドライン策定へ

安定ヨウ素剤事前配布

原発から30キロ圏外では全国で初めて安定ヨウ素剤を事前配布する篠山市。今秋配布するのは、希望する市民1万人分程度と想定しており、それぞれ自宅でも保存する。誤飲を防ぐために入れる容器も同時に配るほか、市は避難計画などを示すガイドラインをつくる方針。

(3面参照)

素案によると、安定ヨウ素剤の事前配布に

ついて、夏ごろまでに医師会への協力依頼や職員研修、自治会や学校単位での学習会を行う。さらに、市の広報誌やホームページ、チラシなどを通じて周知した後、3〜20歳、20歳以上、追加配布希望者の順に配る。医師の問診などが必要で、市は希望する市民を約1万人と見込んでいる。市は新たなヨウ素剤



福井県が原発5キロ圏内に配った安定ヨウ素剤とその容器。篠山市役所

は「関西広域連合として、事故の際の方針を示すよう申し入れているが国の動きを待っている状態。各自自治体の動きについては個々に任せたい」と話した。(安福直剛)

や容疑代、人件費などを9月議会に補正予算案として提出する予定。現在、市役所などに備蓄している5万人分とは別個に準備する。酒井隆明市長は提言を受け、事故が起きた際の避難計画などを盛り込んだガイドラインをつくる方針も示した。

17日、酒井市長に提言書を手渡した原子力災害対策検討委員会の森口久副委員長(66)は「国や県の対策がまともでない中、市単独ですべてができることは思っていないが少しでも前に進んでほしい」と話した。一方、県防災企画課

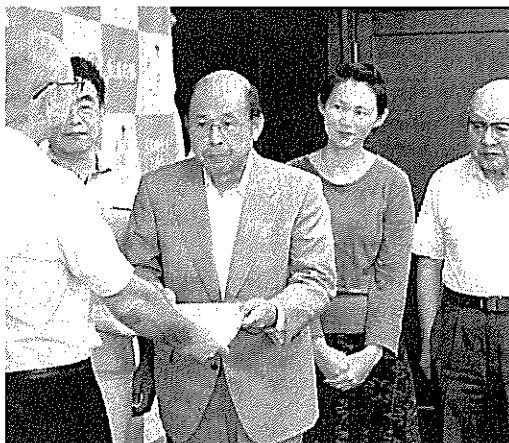
6/18 朝日

原発事故に備え提言

篠山市 対策検討委が提出

篠山市原子力災害対策検討委員会(委員長・平野斉副市長)の森口久副委員長らが17日、酒井隆明市長に「原子力災害対策計画にむけての提言」を提出した。酒井市長は「避難対策のガイドラインや安定ヨウ素剤配布、深刻な事故が発生した場合の災害対策本部設置など提言に基づいてできることをやっていく」と述べた。

検討委は2012年10月に第1回を開き、今月まで11回の会合を重ねてきた。提言では、人々の命



酒井隆明市長(左)に提言書を手渡す森口久副委員長。篠山市役所で

ミューションの重要性の市民への伝達▽安定ヨウ素剤の事前配布計画策定—などを求めている。

検討委は「原子力災害に限らず災害全般に對して市民一人一人の日ごろの備えが災害に強いまちをつくる」としている。

【丸井康充】

ヨウ素剤 子ども優先検討

篠山市事前配布 更新や回収課題山積



安定ヨウ素剤と専用保管容器。容器は福井県から提供を受けたもの(篠山市役所で)

更新や、転入者への配布や
転出・死亡の際の回収方法
など、課題は多い。

原子力発電所の事故による
甲状腺の内部被曝を防ぐ
ため、事故直後に服用する
安定ヨウ素剤を市民に事前
配布することを決めた篠山
市は、具体的な方法を検討
している。福井県などの先
行例を参考に、被曝の影響
が大きい子どもから、今秋
の配布を目指す。

その上で①3〜20歳の若年
層②希望者③説明会に参加
できなかった市民——の順
に配布する。希望者を人口
の約4分の1の約1万人と
見込み、既に備蓄している
5万人分とは別に購入す
る。

子どもへの配布について
は、市教委と連携し、幼稚
園や小中学校を通じて行っ
方針だが、高校生以上への
配布には県教委の協力が必
要だ。また、国の指針では、
配布にあたって医師の問診
が必要とされており、医師
会などの理解が欠かせな
い。3年ごとのヨウ素剤の

漢方薬の老舗
赤船堂
2号線池い大手前西
288-2549

併せて市は避難計画など
を示す市独自の対策指針も
作成する方針。
内閣府によると、原発か
ら30キロ圏外でヨウ素剤を事
前配布するのは全国初。

6/18
読売

篠山、ヨウ素剤事前配布

市方針 原発30キロ圏外全国初

兵庫県篠山市は17日、原
子力発電所の事故に備え
て、甲状腺の内部被曝を防
ぐ安定ヨウ素剤を、市民に
事前配布することを決め
た。国の原子力災害対策指
針では、原発5キロ圏内の自
治体に事前配布、30キロ圏内
の自治体に備蓄を求めている

兵庫県篠山市は17日、原
子力発電所の事故に備え
て、甲状腺の内部被曝を防
ぐ安定ヨウ素剤を、市民に
事前配布することを決め
た。国の原子力災害対策指
針では、原発5キロ圏内の自
治体に事前配布、30キロ圏内
の自治体に備蓄を求めている

る国際基準(50ミリ・シー)の
3倍以上の被曝線量が示
された。このため、市原子
力災害対策検討委員会を
設置し、14年に市民と観
光客用に5万人分を備蓄
した。
この日、同委員会が「事
故後24時間以内の服用が効
果的。すみやかな事前配布
を」と提言。酒井隆明市長
が、年内配布に向けて9月
議会に予算案を出す方針を
明らかにした。